

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、米国発の金融不安を背景に海外経済が減速し国内企業の輸出が鈍化するとともに、急激な原燃料価格等の高騰により企業収益に影響を与えました。また、個人消費は景気の停滞で所得が伸び悩む一方、生活必需品の値上げが進み消費者の景況感が一段と悪化し、先行きの不透明感を一層強めながら推移してまいりました。

当社の主力とする調剤薬局業界におきましては、医療費の抑制を目的とした医療制度改革が推進されており、長期投薬の増加やジェネリック医薬品の使用促進が進められる中で、薬局調剤医療費の伸び率は鈍化傾向にあり、業界を取り巻く経営環境は更に厳しさを増すことが予想されます。

このような経営環境の中で当社は、コア事業である調剤薬局事業の拡大が図れたことに加え、医薬品卸事業、介護事業、不動産事業とも業績が堅調に推移しました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高 7,937百万円(前年同期比13.3%増)、営業利益318百万円(前年同期比11.3%増)、経常利益258百万円(前年同期比10.0%増)、中間純利益は120百万円(前年同期比8.9%増)となり、増収増益となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、新規店舗の売上高に加え、調剤子会社及び既存店が順調に推移したことから、売上高7,426百万円(前年同期比13.6%増)、営業利益462百万円(前年同期比2.6%増)となりました。

#### (医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、薬価改定の影響により、売上高273百万円(前年同期比2.5%減)、営業利益11百万円(前年同期比23.3%減)となりました。

#### (介護事業)

介護事業におきましては、子会社の株式会社ヘルスケア一光にて、運営を開始した有料老人ホーム2施設が計画どおり推移した結果、売上高136百万円(前年同期比61.2%増)、営業利益11百万円となりました。

#### (不動産事業)

不動産事業におきましては、不動産取得税7百万円の支出により、売上高101百万円(前年同期比1.8%増)、営業利益51百万円(前年同期比18.5%減)となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」）は、前連結会計年度末に比べて311百万円減少し1,557百万円となりました。これは、営業活動によるキャッシュ・フローが179百万円増加したこと、投資活動による支出が102百万円あったこと、財務活動によるキャッシュ・フローが388百万円減少したことによるものです。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において営業活動の結果得られた資金は179百万円（前年同期比214百万円の増加）となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益255百万円（前年同期比20百万円の増加）と法人税等の支払額190百万円の他に、売上債権111百万円の増加及び、減価償却費・のれん償却額124百万円によるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において投資活動により使用した資金は102百万円（前年同期比848百万円の減少）となりました。これは主に、薬局店舗（新規薬局含む）と介護事業への投資のため、有形固定資産の取得による支出106百万円によるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において財務活動の結果支出した資金は388百万円（前年同期は1,223百万円の収入）となりました。これは主に、社債の償還による支出500百万円と長期借入金の純増減額192百万円によるものであります。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 調剤実績

当中間連結会計期間の処方箋応需枚数の地区別実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当中間連結会計期間 (自 平成20年3月1日 至 平成20年8月31日) (枚)	前年同期比(%)
三重県	328,417	99.9
大阪府	98,311	99.5
京都府	100,283	96.4
山梨県	61,610	561.7
神奈川県	64,893	98.6
その他	161,812	96.1
合計	815,326	105.0

### (2) 販売実績

当中間連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称		当中間連結会計期間 (自 平成20年3月1日 至 平成20年8月31日) (千円)	前年同期比(%)
調剤薬局事業	薬剤料	5,771,233	114.8
	技術料等	1,654,979	109.6
小計		7,426,213	113.6
医薬品卸事業		273,318	97.5
介護事業		136,309	161.2
不動産事業		101,276	101.8
合計		7,937,118	113.3

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 調剤薬局事業の地区別販売実績

当中間連結会計期間の調剤薬局事業の地区別販売実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当中間連結会計期間 (自 平成20年3月1日 至 平成20年8月31日) (千円)	前年同期比(%)	当中間連結会計期間末 店舗数(店)
三重県	2,706,295	107.4	31
大阪府	1,133,090	105.5	9
京都府	976,038	100.3	8
山梨県	682,426	591.4	1
神奈川県	516,856	99.5	3
その他	1,411,505	105.4	18
合計	7,426,213	113.6	70

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3 【対処すべき課題】

当中間連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### 4 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行なわれておりません。

### 5 【研究開発活動】

該当事項はありません。